

成果報告書

報告書: 加藤優和

活動名: 学生主体の学びのコミュニティ再建と新たな試み: 慶應義塾大学SFCフランス語研究室のSA制度活用事例

活動期間: 2025年3月27日

活動場所: 関西日仏学館 大阪府大阪市北区北区2丁目天神橋2-2-11 阪急産業南森町ビル9階

【活動概要】

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)のフランス語研究室では、伝統的に SA (Student Assistant)制度を利用して授業補助だけではなく、学内のフランス語学習コミュニティの拡充に努めてきた。

様々な理由により停滞の続いたフランス語研究室であったが、2024 年以降のフランス語研究室は SAたちの自主的な取り組みにより活況を取り戻し、豊かなフランス語学習コミュニティが構築された。本報告においては、SFC フランス語研究室の SA たちの様々な試みや、ネットワークとチームワークのあり方、学生主導のコミュニティ再建に向けた工夫、活動の中で出会った問題点などを教員、SAの双方の観点から報告する。また、現代における学生アシスタントを活用する学習活動分析の機会とすると共に、今後のさらなる展望を紹介する。大学キャンパスにおけるフランス語学習コミュニティ運営と、学生アシスタントの活用および協働の一端を紹介することで、より良い学習環境づくりを共に考える機会にしたい。

【発表概要】

他大学では、言語専用の研究室がありそこで学生が雇用されているということが極めて少ない。SFC フランス語研究室は研究室 SA 制度をキャンパス開設当時より活用し、学生主体の研究室運営を続けてきた。この歴史は他に例を見ないものである。

また、アフターコロナで停滞した研究室を学生が自ら立て直した。履修者向けのイベントを月に 1 回以上実施している点や SNS を活用した活発な発信、経年により仕様が古くなった研究室ホームページの大規模改修、海外研修参加者に向けた問い合わせ窓口の設置など、SA は「今、フランス語履修者のニーズは何であるのか」を模索し、その問題に対応することで活動の幅を広げてきた。今年度は SFC だけにとどまらず、獨協大学のフランス語学習サークルとの横のつながりの構築にも取り組んだ。この SA の活動内容、活動姿勢は独創性が高いと自負している。

今回の発表では、これまでの活動を振り返り、他大学での再現性が高いと思われる部分を中心に報告を行なった。また、教員がどのようなスタンスで研究室運営に参加しているかについても調査し見解を述べた。「研究室 SA」という恵まれた制度の中での SA の活動を反省的に振り返り、再現性の高い要素を抽出し参加者に伝えるというこの発表は「学生が主体的に語学を学び、語学を通じたコミュニティを形成していく」という活動を全国に広げ、言語学習のモチベーション維持のために言語学習コミュニティの構築に興味を持つ多くの参加者にとって有意義な報告となり、また、我々にとっても今後の研究室運営のためのヒントを得ることができた。また同時



に、SFC のフランス語学習者コミュニティとの接続を他大学に呼びかけ、さらに大きなネットワークを構築する機会の1つとなったと考える。

【発表成果】

SFCフランス語研究室における学生主体のコミュニティ形成に関して、他大学の先生方に関心を持っていただき、多くの質問をいただいた。また、我々から今年度の課題点として3点ディスカッションテーマを提供し、そこに関連した解決策も提案していただいた。特に、「研究室への通常時の来訪者数が少ないこと」、「SA間のタスクの偏りについて」の議論は大変白熱し、多くの解決策が集まった。前者に関しては、同様の課題を抱えている大学が多く、現状を共有し合い、発表者と聴衆が一体となって解決策を模索するという形であった。SFCフランス語研究室で取り入れやすい方法としては、学期始めにSAが教室を訪問する際、先生方にもご協力いただき、実際にフランス語研究室に履修者を案内する、や、授業を研究室で行う機会を設けるといった意見があり、次学期取り入れられるよう検討していきたい。また、後者に関しては、人生の先輩として、たくさんの先生方からアドバイスをいただいた。「タスクが偏ることはいたし方がないことで、今後、社会に出て働く中でも起きうること。だから、タスクの偏りをなす必要はなく、社会の縮図を経験していると考えれば良いのではないか」という意見はこれまで一度も考えたことがなく、非常に勉強になった。



【おわりに】

このたびは、学会参加のために、貴重な補助をいただくことができましたこと、SFC学会様には心より感謝申し上げます。補助をいただいたおかげで十分に準備をする時間を得ることができました。また、他の参加者の発表やいただいたフィードバックから今後のフランス語研究室運営の指針や多方面からの解決策を講じることができ、履修者に対し、より快適で効果的な学習環境の提供ができるようになるかと確信しております。新学期からさらにフランス語セクションを盛り上げられるよう邁進して参ります。